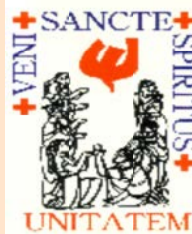


2017年11月5日 (第181号)
 発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
 〒760-0074 高松市桜町1-8-9
 TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
 Email
 教区: catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
 広報: tk-koho@mxi.netwave.or.jp
 生涯養成: yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
 WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/



カトリック高松教区報

マザー・テレサの言葉
 イエスが、わたしを愛して下さったように、互いに愛し合いなさい。
 イエスは、わたしたちのために、命を捧げて下さいました。
 ですから、わたしたちも、自分にとっていちばんたいせつなものを差し出さなければなりません。

「ルター宗教改革500年」巡礼に参加して

今年、ルターの95箇条の提題提示から、500年目に当たります。ルターがカトリック教を分かつた1500年代の歴史と宗教改革と呼ばれる分列状況から、ルーテル教会とカトリック教会は50年の年月をかけて対話を続けてきた旅の道程です。



ルターへの受洗教会

2013年には「争いから交わりへ」の一致に関する文章を掲げ、今までは対立点を強調してきた両教会が、一致への思いを込めて動き始めています。

日本でも今年11月23日に長崎のカトリック浦上教会で、両教会の合同の記念式典が計画されています。そのような状況の中で、私は日本で唯一の(日本聖書協会の渡部総理事による)エキュメニカルな常設機関、神戸バイブルハウス主催の巡礼に参加できたことは幸甚です。



ルターへの受洗教会内部・中央は受洗盤

燃やした建物巡りながらカトリック教会側の大切にしていくものを味わうというものでした。後半はその教会に対して、ルターへの歩みを、4つのルターの町といわれ、ルターが生まれた町アイナスレーベン、

ラテン学校に通ったアイゼナハ(ここはバッハの町であり、テレマンの勤めた町でもあります)、ルターの名の巡礼団で、ルターゆかりの地を巡礼してきました。巡礼の道筋は、前半は当時の庶民の信仰心と大司教のあり方を、感じるドイツの旅でした。

大司教のカアドラルであるマインツ大聖堂、カール大帝などの帝国の聖堂といわれるアーヘンの大聖堂、ゴシック建設として最大のケルン大聖堂、そしてケルンの大司教の官邸アウグスブルク城、等を訪れ、豪華絢爛な建物を巡りながらカトリック教会側の大切にしていくものを味わうというものでした。後半はその教会に対して、ルターへの歩みを、4つのルターの町といわれ、ルターが生まれた町アイナスレーベン、

カトリックの聖週間の典礼は、4世紀末エルサレムを訪れたエズエリア修道女がその時々の場を見た、エルサレムの典礼の影響が

手に入れました」と、説明されました。そのお金のとばっちり、贖罪符の販売となっていたというところから、罪の赦しは神からですが、その償いの一つの方法として教会財政に援助するといふ習わしがありました。ところがこの贖罪符の販売を一手に引き受けた修道者が、「金貨がチャリンと鳴ると魂が一つ天に昇る」などと言って、自動販売機化させたわけでした。

当時のスペインの大司教が、贖罪符の販売を断ったという話を聞くにつれ、個人的な欲が歴史を変えていく姿をそこに思いになりました。マルブルクやヴァルトブルク城では、わたしたち日本でもハンガリーのエリザベト(ドイツではチューリッゲン)のエリザベトといわれています)といわれる聖人がとても敬われていることにびっくりしました。

なせドイツ騎士団が聖堂を、と思っていたところ、ドイツにはテンブル騎士団(ダレンチコード)に出でます)、聖ヨハネ騎士団、そしてドイツ騎士団という3大騎士団修道会(エルサレム巡礼の護衛から、騎士の役目も担うことになった修道会)があります。

このドイツ騎士団の団長であったエリザベトの義兄弟がローマ教皇から破門を受けたため、彼自身を救済するための教会奉仕の一つの産物として、エリザベト聖堂を建てたことが判り、遠い騎士団ということばが私にとっても、身近なものとなりました。

ルターが生きた時代・場所を歩く ユダヤ人迫害にも利用された

時のアルブレヒト・フォン・ブランデンブルク大司教の肖像の首に2つのパトリウム(教皇と大司教の権威のしるしの首飾り)

「聖エリザベトを尊敬」貧しい人にパンを持って行くこととするとき、ご主人が掛かっているのを見ました。

教会を支えるエリザベト像の王様に見つかり、籠の中何に隠しているのですかと尋ねられて、バラの花を持っていきますと嘘を言ったところ、中を見せてくださいと頼まれ、仕方なく籠の中を見せるとパンがバラに変わっていたという奇跡が紹介されていました。

このエリザベトの聖堂がマルブルク城の下にある

その折のローテンブルグに於いての私にとって一番印象的に残っていたものは、中世犯罪博物館だったので。その時は、ルーテルの教会というところで、聖堂の中味もさうと見学したのだなあと、思い出しました。しかし今回はルターというテーマに基づいてじっくり

と見ただけで、視点の違いによって、見え方が全く違うということを経験したというわけですね。

「人間がこんな哀しいのに、主よ海があまりにも善いのです」長崎の遠藤周作文学館の「沈黙の碑」に刻まれている句です。

95箇条のゆかりの地

彫刻師リーメッシュナイダーの「心を扶ける祭壇・聖血祭壇と聖母マリアの祭壇」を訪れ、その後、95箇条の提題の送り先(ヴィッテンブルクの城教会に貼り出したという)は、現在疑問視されている(、マインツの

その他、人々の生活を現す指ぬき博物館、ライン下り、ドイツではここしかないといわれるユダヤ人の迫害を心に留めたシャガール

贖罪符にまつわる話」例えば、ルーテル教会の典礼はカトリックに似ていること、聖人聖女を大切にしていること、暴力を嫌っていたことなどを、肌で感じた時でもありました。

マルブルクやヴァルトブルク城では、わたしたち日本でもハンガリーのエリザベト(ドイツではチューリッゲン)のエリザベトといわれています)といわれる聖人がとても敬われていることにびっくりしました。

その財産収入が目的化され、司教も修道院長も領地不在のことが多く、そのため教会や修道院の質が落ちてしまし、人々が憂慮していた状況であったことがルター時代の社会状況だったわけですね。

また一つ、私にとって大きな気づきがありました。ローテンブルグのヤコブ教会で、リーメッシュナイダーの「聖血の祭壇」を見学したときです。

「糸を紡ぐこと」、それは自分が経験したこと、歴史的な場に佇むことが、私と現実とをつなぐ体験として織りなされる巡礼の醍醐味だったのかもしれないと改めて思っています。

青の中で二教を祈る

聖シュテファン教会での礼拝の時、あるいはカサ・ヴィルヘルム教会の隣にある新教会での礼拝の時、どちらもその空間が青に映る空気の中で、その青は戦争が人々の幸せを剥奪する非人間性を指し示し、また一致へと向かわせる本質であり、お前の罪は赦される。自分の最後に心を致し、敵意を捨てよ、滅びゆく定めと死を思い、掟を守れとあります。

自分自身にゆるぎある存在だと悟り、こぶしを振り上げたりのないで、すべては過ぎ去ると考えて大観しなさいと言っています。

今月は死者の月です。死者は常に自分の人生を見つめ直すようにと問いかけてくれています。感謝を込めて彼らのために祈りましょう。

また今月は、教区民の集いが各地区で行われます。社会の二つ道に向けて教会が提供できることを考える「福音マーケット」が行われます。

「社会とともに歩む教会に向けて」司教様とともに手をたずさえて歩んで参りましょう。

「青の中で二教を祈る」

「青の中で二教を祈る」

はばたき

「人間がこんな哀しいのに、主よ海があまりにも善いのです」長崎の遠藤周作文学館の「沈黙の碑」に刻まれている句です。

昔、彼の小説を読んだ時も「言葉にひびく心が揺さぶられたのを感じます。信仰の旅路において、人々は穏やかな生活を望んでいるにもかかわらず、世界を見渡しても、身辺にも、いさかい、争いがあり、困難や苦しみが絶えず絶えずとあります。

八木重吉の詩に、「すべてのくらくらした心は、むせむじょうけんに、むせむじょうけんに、ゆるすというそのいちねんがきこえた」とあります。

シラ書には、隣人から受けた不正を赦せ。そうすれば、願ひ求めるとき、お前の罪は赦される。自分の最後に心を致し、敵意を捨てよ、滅びゆく定めと死を思い、掟を守れとあります。

自分自身にゆるぎある存在だと悟り、こぶしを振り上げたりのないで、すべては過ぎ去ると考えて大観しなさいと言っています。

今月は死者の月です。死者は常に自分の人生を見つめ直すようにと問いかけてくれています。感謝を込めて彼らのために祈りましょう。

また今月は、教区民の集いが各地区で行われます。社会の二つ道に向けて教会が提供できることを考える「福音マーケット」が行われます。

【子供と女性をまもる委員会】

カトリック中央協議会 聖職者による性的虐待があれば直ちに「教区対応チーム」(責任者・教区司教)に連絡ください。

連絡先 087-831-6659

カトリック中央協議会 聖職者による性的虐待があれば直ちに「教区対応チーム」(責任者・教区司教)に連絡ください。

連絡先 087-831-6659

カトリック中央協議会 聖職者による性的虐待があれば直ちに「教区対応チーム」(責任者・教区司教)に連絡ください。

連絡先 087-831-6659

カトリック中央協議会 聖職者による性的虐待があれば直ちに「教区対応チーム」(責任者・教区司教)に連絡ください。

ヨゼフ新司祭の家訪問

ヨゼフ神父のふるさとを訪ねて 3

1 教区事務局長 西川康廣

いよいよヨゼフ神父の実家へと車を走らせた。わたしは疲れからかすっかり眠りに入り、到着まで天国にいた。到着ですという声に「瞬」こは一体どこ」と声を掛けながら返事はなかった。

案内されるまに、家内に入り、家人と平凡な挨拶を交わしていた。ヨゼフ神父が現れたので、わたしは彼に「ここはどこ」と再度尋ねると、「我が家です」と返事があった。

居合わせた二人の老夫婦に誰であるかわからないまま話を掛けていたが、まったく英語も通じなく躊躇していたところだった。

わたしは更に彼に尋ねた。「この方々は誰ですか」とすると「両親です」と答えが返ってきたのでびびりした。これがベトナムでの3番目のハブニングだった。

子息捧げたご両親に心から感謝



ヨゼフ師実家の前で、ご両親(前列右お二人)とご親族

そしてご両親の手をしっかりと握りしめ、高松教区はヨゼフ神父を大事しますと約束すると、ご両親は目に涙を浮かべて次のように言われた。「息子が司祭になつたと言った時、勿論私たちは息子の気持ちを尊重し、いつでも神様にお捧げする用意はできていた。」

滞在了り2日間、道路に面して解放されたリビングルームにおいては、ヨゼフ神父の司祭叙階式、そしてベトナムでの初ミサの様子が、一日中繰り返し、繰り返し放映されていた。

村人たちが入れ代わり立ち代わり中に入り、そのDVDを鑑賞していた。村人たちは、ベトナムのお茶(ハブ茶)をすすりながら喜びを分かち合っていた。

聞くと、ベトナムにおけるキリスト教の宣教はこの地から始まり、ベトナム全土に広まったとのことである。私たちは既に日曜日のミサは終えていたが、村の中の一つの大きな教会の広大な敷地いっぱい埋め尽くした野外でのミサだった。また聖母月でもあり、ミサ入祭時は小教区の楽団があつて、様々な吹奏楽器、弦楽器、打楽器等々を元気づく演奏し、色どりの旗を従え、長い行列をなして元気づく入祭した。

楽団に続き侍者団、司祭団、そして司教の前にもわたしとヨゼフ神父が村人たちからも愛されているか肌で感じる事ができた。彼の家の晩は前夜祭、これまた村中の人々が一堂に会し、食事とカポエラに興じていた。わたしも招かれ、カポエラで都はるみの『夫婦坂』を披露した。拍手大喝采だった。その後近所の人に招かれ、これまたお茶を飲みながら話し談笑した。

ベトナム滞在最終日の朝、わたしは夕方ヨゼフ神父の家から歩いて5分位のところに小教区があり、そこで、日本語を教える「子ども」にも捧げる「ミサ」があるのことに参加した。約1500〜1600人が入る聖堂で、堂内は600〜700名の子供たち、そして大人たちや楽団で埋め尽くされていた。大きな声で受け答える子供たちの声や歌声に心からの感動を覚えた。

ミサの終わりにわたしは日本語で子供たちに少しだけ日本の教会を紹介し、ヨゼフ神父がベトナム語で通訳してくれた。一つ一つの言葉に、子供たちが大きな拍手を送ってくれたことは大変嬉しかった。

その後、シスター方と一緒に朝食を馳走になり、行く先々で出されるゆめ卵(ハルーツウ)という孵化寸前の卵)はどうしても口へ運ぶことが出来ず、申し訳なかったと反省。因みに、ベトナムの平日の朝ミサは4時、5時、6時と続き、このミサで奉仕してくれた侍者たちに、「早朝からご苦労様」と声を掛けて、次の返事が返ってきた。「わたしたちは、このミサ2つ目です」と。

この言葉には頭が下がった。村中の小教区や修道院において、幅2メートル高さ1メートル位の額縁に、ヨゼフ新司祭の叙階式・初ミサ時の写真が飾られていたのには驚きだった。翌日がヨゼフ神父の甥子の結婚式であつて、この日の晩は前夜祭、これまた村中の人々が一堂に会し、食事とカポエラに興じていた。わたしも招かれ、カポエラで都はるみの『夫婦坂』を披露した。拍手大喝采だった。その後近所の人に招かれ、これまたお茶を飲みながら話し談笑した。

でもあの時の悲しみの涙は、今こうして遠い日本からわざわざベトナムへ駆けつけていただき、更に温かい言葉を頂戴し、わたしたちの悲しみの涙は喜びの涙に変わりました」と。

家族のみならず、どれほどヨゼフ神父が村人たちからも愛されているか肌で感じる事ができた。彼の家の晩は前夜祭、これまた村中の人々が一堂に会し、食事とカポエラに興じていた。わたしも招かれ、カポエラで都はるみの『夫婦坂』を披露した。拍手大喝采だった。その後近所の人に招かれ、これまたお茶を飲みながら話し談笑した。

あれほど狂騒で賑やかな演奏の中で、まるでオリンピックの入場式のような雰囲気でのミサ入祭は初めての経験だった。更に夕方は夕方ヨゼフ神父の家から歩いて5分位のところに小教区があり、そこで、日本語を教える「子ども」にも捧げる「ミサ」があるのことに参加した。約1500〜1600人が入る聖堂で、堂内は600〜700名の子供たち、そして大人たちや楽団で埋め尽くされていた。大きな声で受け答える子供たちの声や歌声に心からの感動を覚えた。

ミサの終わりにわたしは日本語で子供たちに少しだけ日本の教会を紹介し、ヨゼフ神父がベトナム語で通訳してくれた。一つ一つの言葉に、子供たちが大きな拍手を送ってくれたことは大変嬉しかった。

その後、シスター方と一緒に朝食を馳走になり、行く先々で出されるゆめ卵(ハルーツウ)という孵化寸前の卵)はどうしても口へ運ぶことが出来ず、申し訳なかったと反省。因みに、ベトナムの平日の朝ミサは4時、5時、6時と続き、このミサで奉仕してくれた侍者たちに、「早朝からご苦労様」と声を掛けて、次の返事が返ってきた。「わたしたちは、このミサ2つ目です」と。

この言葉には頭が下がった。村中の小教区や修道院において、幅2メートル高さ1メートル位の額縁に、ヨゼフ新司祭の叙階式・初ミサ時の写真が飾られていたのには驚きだった。翌日がヨゼフ神父の甥子の結婚式であつて、この日の晩は前夜祭、これまた村中の人々が一堂に会し、食事とカポエラに興じていた。わたしも招かれ、カポエラで都はるみの『夫婦坂』を披露した。拍手大喝采だった。その後近所の人に招かれ、これまたお茶を飲みながら話し談笑した。

わたしは、医療機関における福音宣教活動が職員にも利用者にも「マルチン病院での関わりと出会いがよかった」と喜んでいただけたよう努めてまいりたいと思っております。

私は今、聖マルチン病院での使命に従っていますが、現在、介護保険制度は「経済財政運営と改革の基本方針2017」の施策の中にあります。現場では、2名の神父様の訪問と各専門職員がイエスの福音の精神でご利用者に優しく寄り添い介護をしています。

私たちが、医療機関における福音宣教活動が職員にも利用者にも「マルチン病院での関わりと出会いがよかった」と喜んでいただけたよう努めてまいりたいと思っております。

私たちが、医療機関における福音宣教活動が職員にも利用者にも「マルチン病院での関わりと出会いがよかった」と喜んでいただけたよう努めてまいりたいと思っております。

金祝・銀祝・米寿 おめでとうございます！！

金祝 Sr. 松本尚史、銀祝 Sr. 沖野弥生、Sr. 山名静子
米寿 Sr. 岡林満尾、Sr. 中村加代子、Sr. 森脇シズエ



中央：Sr. 松本尚史

「コリント書を読んで、パウロは自分の受けた使命、自分の使徒職をどのように理解したかを自分の中で、まとめてください」とあり、読み返してしまつたら、懐かしい「みまほ」が飛び込んできました。若くして入会した私に、老いた両親に代わり姉達が一熊蔵じいさんからの贈り物」を届けに来てくれていました。同級生と西尾神父

私は今、聖マルチン病院での使命に従っていますが、現在、介護保険制度は「経済財政運営と改革の基本方針2017」の施策の中にあります。現場では、2名の神父様の訪問と各専門職員がイエスの福音の精神でご利用者に優しく寄り添い介護をしています。

しかし息子が日本で宣教したいと言った時、そのことを耳にした妻は3日間寝込んでしまいました。ベトナムで働いてはしかなかった。でもあの時の悲しみの涙は、今こうして遠い日本からわざわざベトナムへ駆けつけていただき、更に温かい言葉を頂戴し、わたしたちの悲しみの涙は喜びの涙に変わりました」と。

家族のみならず、どれほどヨゼフ神父が村人たちからも愛されているか肌で感じる事ができた。彼の家の晩は前夜祭、これまた村中の人々が一堂に会し、食事とカポエラに興じていた。わたしも招かれ、カポエラで都はるみの『夫婦坂』を披露した。拍手大喝采だった。その後近所の人に招かれ、これまたお茶を飲みながら話し談笑した。

あれほど狂騒で賑やかな演奏の中で、まるでオリンピックの入場式のような雰囲気でのミサ入祭は初めての経験だった。更に夕方は夕方ヨゼフ神父の家から歩いて5分位のところに小教区があり、そこで、日本語を教える「子ども」にも捧げる「ミサ」があるのことに参加した。約1500〜1600人が入る聖堂で、堂内は600〜700名の子供たち、そして大人たちや楽団で埋め尽くされていた。大きな声で受け答える子供たちの声や歌声に心からの感動を覚えた。

ミサの終わりにわたしは日本語で子供たちに少しだけ日本の教会を紹介し、ヨゼフ神父がベトナム語で通訳してくれた。一つ一つの言葉に、子供たちが大きな拍手を送ってくれたことは大変嬉しかった。

その後、シスター方と一緒に朝食を馳走になり、行く先々で出されるゆめ卵(ハルーツウ)という孵化寸前の卵)はどうしても口へ運ぶことが出来ず、申し訳なかったと反省。因みに、ベトナムの平日の朝ミサは4時、5時、6時と続き、このミサで奉仕してくれた侍者たちに、「早朝からご苦労様」と声を掛けて、次の返事が返ってきた。「わたしたちは、このミサ2つ目です」と。

この言葉には頭が下がった。村中の小教区や修道院において、幅2メートル高さ1メートル位の額縁に、ヨゼフ新司祭の叙階式・初ミサ時の写真が飾られていたのには驚きだった。翌日がヨゼフ神父の甥子の結婚式であつて、この日の晩は前夜祭、これまた村中の人々が一堂に会し、食事とカポエラに興じていた。わたしも招かれ、カポエラで都はるみの『夫婦坂』を披露した。拍手大喝采だった。その後近所の人に招かれ、これまたお茶を飲みながら話し談笑した。

わたしは、医療機関における福音宣教活動が職員にも利用者にも「マルチン病院での関わりと出会いがよかった」と喜んでいただけたよう努めてまいりたいと思っております。

私は今、聖マルチン病院での使命に従っていますが、現在、介護保険制度は「経済財政運営と改革の基本方針2017」の施策の中にあります。現場では、2名の神父様の訪問と各専門職員がイエスの福音の精神でご利用者に優しく寄り添い介護をしています。

社会の糧となりますよう

松山で教区女性の会 「福音マーケット」で宣教考える



講師の吉村氏から熱心に説明を聴く参加者

まどめた二枚を見比べて、「何が起きてきたか」をグループで話し合い、三枚目の紙に、その見えてきた事柄を書き出しました。

吉村氏は、皆が参加しているような意見が出るのは、

色んな人々がいるからで、それによって共同体はより豊かになると感じました。イエス様はいろいろな人に出会われ、プレッシャーに負けず、自由にご自分の使命を果たされた。福音から学ぶこと教えられる。一緒にやることの良さ、一緒にやれば出来ること、そして男性からは、「社会は教会をどう見ているか」、「具体的にどうしていくか」、女性の力に期待します」との声もいただきました。司教様は、開店準備万端でなくとも、工夫しながら前向きに進めて行き、何度もうちに覚えていくとの助言をいただきました。今回も司教様の美しい歌声とギターのリードで、テゼの祈りをささげ、聖ラシンスの平和の祈りを歌って会を終えました。

鳴門教会 三原千栄子

まずは、司祭叙階50周年を迎えられましたことをお祝い申し上げます。この50年の司祭生活を振り返って、何か感慨深いものをお持ちと思いますが、このお話の中でお聞きしていただきたいと思ひます。

さて、初めに松永神父様の幼少のお話を伺いたいと思ひます。

わたしの里は、フランシスコ・ザビエルが日本宣教に取り掛かった最初期に宣教の拠点となった長崎県の平戸にある紐差という所です。

私は男5人、女3人の8人兄妹の3男として生まれましたが、現在は男ばかりの4人が健在です。すぐ下の弟はサレジオ司祭になっています。

当時のわたしの里は多くが農業が主で、わたしの家も自給自足の生活でした。白米にサツマイモを干して作ったカンコロをいれて増量を図ったカンコロごはんが思い出されます。

＊紐差小教区といえは多くの召命が生まれた土地柄です。神父様の召命の切掛けなどについてお話を伺いたいと思ひます。

私も小さいころからミサの侍者を務めていました。何時も教会に親しむ環境の中、侍者たちは、夏は海水浴に助任司祭に連れていかれてもらっていました。そんな楽しみや主任司祭の温厚で司祭召命に向けた人柄に惹かれたことなども召命の切掛けになったと思ひます。

小学校を卒業と同時に私を含めて2人が長崎の小神学校へ進みました。

当時同学年で30数名近くが入学し、1学期の終わりに長崎、鹿児島、高松、大阪教区へと振り分けられ、私は高松教区となったわけです。

中学校は長崎南山、高等学校はマリア会が経営してに巡りましたが、再度三本

叙階後は一旦、神学院にクが聖堂の守護者でした。新しい聖堂建立を計画していた時、四国の教会史に造詣が深かったドミニコ会司祭から、土佐出身の田中夫妻殉教者がいると聞き、その詳しい話として、20

わたしの叙階式は桜町司教座聖堂で、田中英吉司教によって執り行われ、その後、先述の半年の実習を終えて、三本松教区に派遣されました。

そして三本松教会を皮切りに、番町、江ノ口と司牧

心行くまでのんびりと散策することが何より心の癒しとなっています。

＊司祭生活の中での良き思い出があれば教えてください。

小さい子供たちがその触れ合いの中で成長し、大人となり、母親となり、育っていったその人々との

司祭紹介

東讃ブロック 番町教会担当司祭

松永洋司師



再会

平戸の小学校を卒業し神学校へ

栗林公園の散歩も心の癒し

松から番町へと赴任し、今に至っています。

＊高知の江ノ口教会を新しく献堂された折、聖堂の守護者として福者・田中夫妻を選ばれたとのことですが、どのような経緯があったのでしょうか。

かつては江ノ口教会のお隣に聖心の布教師妹会修道院がありました。その関連だと思ひますが、当時、聖マリア・アラコッ

＊今、楽しみになごといえは、どんなことがありま

平戸島という海に囲まれた環境で育ったこともあり、釣りがとても好きですが、ここではなかなかチャンスがありません。たまに里に帰った時などは兄貴と小舟を繰り出して一晩の夜釣り

＊聖書の中の一瞥気に入ったフレーズを紹介させて頂きます。『アッパ・父よ』(マルコ14:36 ロマ8:15 ガラテア4:6)です。

『典礼奉仕』のために (30) 全国典礼担当者会議報告 「典礼における司牧者の役務と信徒の協力」

高松教区典礼委員長 谷口広海

本年も高松教区典礼委員会の担当者として全国典礼担当者会議に出席してまいりました。

夏の暑さが一時的におさまり、軽井沢高原の涼しさの中に、全16教区の典礼担当者が一室に集い、今年度のテーマである「典礼における司祭の役務と信徒の協力」を日本カトリック典礼委員会委員長である梅村司教の丁寧な解説と委員会秘書の宮越氏の説明によって学んでまいりました。

現在、司祭召命と司牧者減少の中にある日本の教会は、「司祭の役務」と「信徒の協力」の在り方を、より真摯に考え、より真剣に取り組みべき喫緊の課題となっていることを、誰もが感じていることでしょう。また、その時が到来しているのも確かなことでしょう。

これから先の教会典礼や教会活動においては、司牧者には司牧者固有の役務に、信徒には信徒であること固有の協力と働きを教会憲章や典礼憲章が指し示す方

向性や指針の中で、どのように実践していったらいいのか、どう対応していけばよいかなど、信徒の方々と共に考えていくように促されています。

社会格差広がるけど 笑顔絶えないフィリピンの人々

私は7月21日から27日まで、フィリピンはマカティという地域を訪問しました。聖母被昇天修道女会に泊らせて頂き、その後はサレジオ会の修道院と小教区でお世話になりました。シスター方も神父様達も、私を兄弟として温かく迎えて下さりました。

短い期間ながら、関係施設を訪問したり小教区のイベントに参加したりと、毎日様々な出会いと体験を頂き、とても充実した時間を頂きました。

主日ミサの規模には圧倒されました。朝から晩までミサの予定が組まれ、毎回大聖堂に人が埋め尽くされるのです。

英語のミサでは何度も福音朗読と聖体奉仕をさせて頂き、車や御祭の祝日もさせて頂きました。

またサレジオ会らしく、日曜の午後には地域の子ど



フィリピンのサレジオ会々員と共に フィリピンにて

も達の活動とミサがあり、リーダーの若者達や沢山の子ども達との交わりを頂きました。

フィリピンの訪問2度目でしたが、一層発展している印象を受けました。林立するビル、ハイウェイ、ショッピング・モール、通りを走る

り抜ける日本製の車、新興住宅地 (subdivisio) に変わりつつあるサトウキビ畑 (sugarcane) など。

一方、極めて貧しい暮らしを送るスラム街の人々、ストリートチルドレン、新車の間を抜けるボロボロのバイク、お客の来ない露店も見ました。

フィリピンでは助祭のこと Reverencia(呼ぶ)。 「お父さん、お母さん」と呼ばれるね」と色んな方に励まされました。

だれでも人は 二つの手を持っている 大きな手 小さな手 温かい手 冷たい手 柔らかい手 かたい手 だれど一人の手は さびしい 誰でも人は2つの手で なにかしている 家を建てる手 家具を作る手 ピアノを弾く手 料理を作る手 小説を書く手 絵を描く手 だれど一人の手は さびしい だから あなたの手を ポケットから出して 哀しんでいる人の 肩をたたき 苦しんでいる人の 背中を抱き 疲れている人を支えて みんなの手と手を つないだら ほんの 口ザリオになる 世界をとりまくほどの 大きな大きな 口ザリオになる みんなの手は 愛 みんなの手は 偉大 みんなの手は 叡智 みんなの手は 祈り



教区スケジュール

Table with 2 columns: Date and Event. Includes dates from 11月1日 to 12月31日 with corresponding church events and observances.

教会の問題点はつきり

西讃地区「教区の日」 「福音マーケット」で考える

秋晴れの清々しい10月8日、周囲から祭りの太鼓の音や、運動会の応援の声が聞こえる中、西讃地区の信者(坂出、丸亀、善通寺、観音寺、池田)が坂出教会に集まりました。

今年のテーマである「福音マーケット」をKJ法によるエクササイズ方式で行い7組のグループに分かれて、夫々が教会での悩みや問題点、また、未来に対する願望等を本音で出していました。



和気あいあいの雰囲気の中でKJ法作業を行う参加者

発表会の後、諏訪司教様の司式で御ミサが執り行われ、各教会から参加した外国籍の信者の母国語での福音書の朗読や、ベトナム語の答唱トナム語の答唱詩編も新鮮味があつて良かった。最後に司教様の派遣の祝福を受け、皆は大きな夢と希望に胸を膨らませながら帰途に就いた。

丸亀教会 太田 修

午後から、グループ毎に発表があり、坂出教会を中心

道後教会の福音宣教

信徒たちが「自分らしいやり方を見つけ」福音宣教に取り組み、信徒増にもつながっている道後教会のケースを10月1日

信徒も入門講座を担当 自分たちのやり方で信徒増 高松教区、信徒増、社会の教会離れなど深刻な状況の中で、道後教会は現在の状況を分析し、その結果を宣教活動に反映させて良い結果を生んでいく。



信徒によるキリスト教入門講座風景

学んでいたが、司祭の移動で講座が続けられなくなるところに特徴があると同時、道後教会では担当司祭が入門講座を聞き5人ほどが

合唱や朗読劇 石原孫右衛門と息子の殉教400年祭

イエス会の記録により、讃岐で殉教したことが伝えられているアントニオ石原孫右衛門と息子のフランシスコ。殉教した年は1667年であるが、400年に当たります。

桜町教会では、今年いくつかの記念行事を行いました。10月1日に殉教400年祭を行いました。

この朗読劇はイエス会に残る記録をもとに2人の殉教の様子を分かりやすく伝えるものです。また、桜町教会では、2007年に2人の石像を建立しており、御像に花の首飾りなどを飾り顕彰式を終えました。

その後、2人と私たちとの深い交わり、桜町教会をいつも導いてくださいますようにとの願いを込めて感

謝の祭儀が行われました。ミサ後は、四国カトリック会館(場所を移し、フルーツパティリーで400年をお祝いしました。たくさんフルーツをいただき、三宅製麺の手打ちうどんも振る舞われ、おなかいっぱいでお祝いしました。

孫右衛門父子についての情報は、桜町教会ホームページに掲載しています。是非ご覧ください。

※三宅製麺三宅評議会長の副業 (写真は顕彰式にて花の首飾りをかけている様子)

新刊書籍紹介

いつくしみ—教皇講話 (Catechesis on mercy) いつくしみの特別聖年中に行われた一般謁見連続講話。聖年の意味の解説から始まり、旧約聖書における御父のわざを考察し、いつくしみに満ちたイエスの姿を福音書に見る。そして「ゆるすこと」と「与えること」といういつくしみの2本の柱を示し、慈善のわざの実践を促す。著者教皇フランシスコ 発行日2017/10/25 ページ数224 P 本体価格 800円 (税込864円)

人生の秋という恵み—成熟と実り、そして日々新たに生きる姿の美しさを教えらる時。さまざまな課題に向き合い、変化を経験しながら人生の旅路を歩む私たち。日々の暮らしの中で福音に聴き、福音によって生かされ、ともに生きることを、いのちそのものである神とその知恵に心を上げつつ見つめていく。人は生涯を通してさまざまな課題に向き合い、変化を経験しながら人生の旅路を歩いていく。日々の暮らしの中で福音に聴き、福音によって生かされ、ともに生きるということ、いのちそのものである神とその知恵に心を上げつつ考えたい。(本文より) 武田なほみ 著 B6判 並製 224ページ 販売価 1,620円(税込) オリエンズ宗教研究所

神を観想し、その実りを人々に伝えよ 暁の星学園 鳴門聖母幼稚園 高知聖母幼稚園 阿南聖母幼稚園 海の星幼稚園

八幡浜教会は、2017年6月1日に小教区創立80周年、同9月25日に献堂67周年を迎えます。これまでの宣教の恵みを感謝する機会として、教区長およびドミニコ会管区長をお迎えして、記念ミサを開催いたします。 八幡浜教会は、2017年6月1日に小教区創立80周年、同9月25日に献堂67周年を迎えます。これまでの宣教の恵みを感謝する機会として、教区長およびドミニコ会管区長をお迎えして、記念ミサを開催いたします。

カトリック高松教区 八幡浜教会 創立80周年記念ミサ 2017年11月26日(日)13:00~ 祝賀会15時

編集後記 高松教区の「福音マーケット」の取り組みは緒に付いたばかりですが、そこから福音宣教のヒントが溢れ出していることを期待している信徒も多いのではないのでしょうか。 また道後教会の信徒による積極的な宣教姿勢を目にした人からの熱いエールも高松教区民にとって大きな励みになります。 四国の教会の現状を見ても、教皇フランシスコの「キリスト者は諦めない」との励ましの中で、これから先の「福音マーケット」を自らに一体化できるかが問われているでしょう。(J)